トライ!!

障害者スポーツをネット中継

NPO法人「STAND」副代表理事 伊藤 数子さん(47)

12年 パラリンピック照準

「私が携帯電話で撮影して映像を送るから、それを見て応援して」―。金沢市の電動車いすサッカーチームを応援していた二〇〇三年秋、伊藤数子さんは、大阪市で開かれる全国大会に行けない選手と約束を交わした。

遠距離の移動にドクターストップがかかり、出場を断念した選手のように、障害者スポーツには会場に行けない関係者が多い。この約束は、試合の様子をインターネットで生中継するNPO法人「STAND」(金沢市)の原点となった。

柔軟なアイデアと軽いフットワーク、あふれるバイタリティーを併せ持つ。携帯電話会社の地域トップに相談を持ちかけ、機材貸与と通信料負担の快諾を得た。技術的な助言も受け、専用サイトからパソコンと携帯に配信する方式を採用。

会場の体育館でロビーにパソコンを設置し、中継を公開すると「すごい」と反響を呼んだ。主催者から「来年もやってほしい」と要望を受け、「毎年続ける」と決めた。

活動母体となるSTANDは、NTTドコモの大星公二元会長を代表理事に迎えて〇五年に設立。中継サイト「モバチュウ」と、大会の予定や結果を案内する「アスリートビレッジ」を立ち上げた。車いすテニスや水泳など毎月のように開かれる大会をスタッフが飛び回り、試合の映像と選手のインタビューを届ける。

今年九月には、三十一カ国の若き障害者アスリートが参加して東京で開かれた「アジアユースパラゲームズ」を公式中継。ビデオカメラ約十台を初めて使い、サイトへのアクセスは大会期間中の四日間で二百三十万件に上った。

「障害者スポーツの最高峰、パラリンピックを中継したい」と夢は膨らむ。「来年冬のバンクーバー大会には間に合わないけど、その次こそは」と、二年のロンドン大会に照準を定める。

本業は、一九九一年に起業したコンサルティング会社「パステルラボ」(同市)の社長。コールセンター用に動画マニュアルを発売し障害者やお年寄りへの対応を支援するなど、社会的弱者の目線を忘れない。(村松権主麿)

「パラリンピックを中継したい」と話すSTANDの伊藤副代表理事=金沢市内で

北陸中日新聞

2009年(平成21年)9月29日(火曜日)